

2016 年度「研究者の横顔」 全田 貞幹先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は元々研究といったものは好きではありませんでした。患者さんと会うのが好きで臨床に 100%力を注いでいましたが、実地臨床でどうしてもわからないことがありその答えが教科書にも載っていなかったため「この部分を解明することこそが自分の仕事かも」と思い今に至っています。

2. 助成研究の内容紹介

放射線治療でできた皮膚炎は患者さんが苦しむ副作用の一つで重症度別に対処法が決まっています。しかし重症度判定が違えば治療法も変わってくるためまずは正しい診断が重要です。

私たちは重症度を客観的に判定できるシステム（Blinded objective grading system : Blogs）を開発し誰でも簡単に重症度判定できる仕組みを作ります。

3. 2 の将来に繋がる結果予想・目標

この取り組みによって地方と都市部の医療格差の軽減が期待でき、患者さんがどこに住んでいても水準の高い医療が受けられるようになればと考えています。

4. 全国の RFL 関係者に一言

貴重な研究費をいただきまして感謝申し上げます。必ず患者さんに恩恵が得られるような成果を上げ最終的にこの研究に配分してよかったと思われるように精進いたします。